

「戦争のない世界を目指して
「平和」とはどういうことなのでしょ
「戦争」とは何故起こるのでしょ
争」をして一体何が残るのでしょ
は、人の命を、文明や文化を、自由を、た
さんのものを奪います。残るのは、憎しみ
悲しみだけです。大切な人を失った悲しみ、
復讐心は、何年、何十年たっても消えるこ
はないでしょう。私にとっての「平和」は
戦争がなく、世の中が穏やかなことです。
は、今までに「平和な世界」が実現されたこ
とはあったでしょう。私は戦争を経験した
ことがないので、歴史でしか知りませんが、
いつの時代になってもどこかの国で戦争が起
きています。知らないだけで、もっとたくさ
んの国で戦争が起きていたり、紛争や内戦が
今もなお続いている国もあつたりします。
もが平和を望んでいて、戦争は愚かで恐ろし
く、絶対にしてはいけないものだわかって
いるのに、戦争はなくなりません。歴史を学

び、過去の過ちをたくさん知ってきたのに、同じ過ちを繰り返してきました。本当に、人間は矛盾ばかりです。そして今、ロシアとウクライナによる新たな戦争が始まってしまいました。まさかこの時代に戦争が起きるなんて夢にも思いませんでした。「戦争」というよりロシアの一方的な「侵攻」の方が適切だと思いますが、私は初めてニュースを見た時、驚愕と同時に「あたり前の日常が突然壊れる」というのはこういうことなんだな」と痛感しました。正直、今でも信じがたいです。自分は、どこか他人事のように感じていました。私は戦争を体験したことがないので、大切な人を失う悲しみも今死ぬかもしれないという恐怖も、自分の住んでいた大切な場所が突然破壊される絶望感も、わかりません。テレビでウクライナの人々が泣きながらインタビューで話していたのを思い出すたび、心が痛くなります。家族に大切な人にもう会えない、帰る場所がない。

このようなことがあってはならないのです。
民間人には、何の罪もありません。ただそこ
に住んでいたというだけで、巻き込まれ、多
くの人々が犠牲になりました。今この瞬間も
戦いたくないけれど、大切な人を守るために
命を懸けて戦いの場に立っている兵士たちが
たくさんいます。プーチン大統領が何を思っ
てウクライナを攻撃したのか、それは本人に
しかわかりませんが、どんな理由があっても
戦争はしてはいけません。人によって考え方
や思うことが違うのはあたり前です。しかし
それを相手に押しつけるのは間違っています
何が正しい選択なのか、それは誰にも分かり
ません。そもそも正しい選択なんてないのか
もしれません。信じることができるのは、自
分の目で見て触れた世界だけです。戦争とは
お互いに自分の正義を貫こうとすることです
突し、起こるのだと私は思います。お互いに
譲れない正義があるのは当然ですが、それを
力づくで押しつけたり、強要したりしてはな

らないのです。私たち人間には「言葉」があり
ります。武力ではなく、話し合いで解決する
ことはできないのでしょうか。そのためには
まず、相手のことを理解し、認め合うことが
大切なのだと、私は思います。
「一人殺せば悪党で、百万人だと英雄だ。
数が殺人を正当化する。」このセリフは、映画
『殺人狂時代』でチャップリンが演じた殺人
犯のセリフです。実際、その通りだと思いま
す。ただ数が違うだけで、殺人も戦争もやっ
ていることは同じなのです。そして、それら
をしているのも、自分と同じ人間なのです。
私には、世界を動かす大きな力はありません
ん。しかし、歴史を学び、後世の人々に歴史
を語り継ぐことはできます。また、戦争のな
い平和な世界を実現するためには、一人一人
が戦争について知り、平和について考えるこ
とが必要ですよ。今ある平和な日常は、昔の人
々の犠牲によってあり、平和であることがあ
たり前ではないと、改めて強く思いました。